

日本放送協会 理事会議事録

(平成26年 8月26日開催分)

平成26年 9月12日(金)公表

<会議の名称>

理事会

<会議日時>

平成26年 8月26日(火) 午前10時30分～11時15分

<出席者>

靱井会長、堂元副会長、塚田専務理事、吉国専務理事、石田専務理事、板野専務理事、木田理事、福井理事、下川理事、森永理事、井上理事
上田監査委員

<場所>

放送センター 役員会議室

<議事>

靱井会長が開会を宣言し、議事に入った。

付議事項

1 審議事項

- (1) 第1220回経営委員会付議事項について
- (2) 平成26年度後半期の国内放送番組の編成について
- (3) 平成26年度後半期の国際放送番組の編成について
- (4) 次期経営計画について

2 報告事項

- (1) 予算の執行状況(平成26年7月末)
- (2) 契約・収納活動の状況(平成26年7月末)

- (3) 地方放送番組審議会委員の委嘱について
- (4) 放送技術審議会委員の委嘱と任期途中の退任について

議事経過

1 審議事項

- (1) 第1220回経営委員会付議事項について
(経営企画局)

9月9日に開催される第1220回経営委員会に付議する事項について、審議をお願いします。

付議事項は、報告事項として「平成26年度後半期の国内放送番組の編成について」と「平成26年度後半期の国際放送番組の編成について」です。

(会長) 原案どおり決定します。

- (2) 平成26年度後半期の国内放送番組の編成について
(編成局)

平成26年度後半期の国内放送番組の編成について、審議をお願いします。

後半期においても、26年度番組改定で定めた各放送波の大きな方針を堅持し、定時番組のさらなる定着と認知度の向上を目指します。そのため、後半期に大きな改定は行いません。

後半期の変更点としては、2点あります。

ひとつは、毎年恒例のプロ野球のシーズンオフや欧米の夏時間の終了に伴う改定です。もうひとつは、「大河ドラマ」や「連続テレビ小説」の新シリーズなど、定期的に入れ替えている番組の変更です。後半期に開始する番組については、昨年度放送して好評を博したものをブラッシュアップするなどして、さらに魅力的な番組を編成します。

後半期の改定は、各波とも9月29日から実施しますが、BS1は、プロ野球のシーズンオフや欧米の夏時間の終了に伴う改定のため、11月3日から実施します。

各波の主なポイントを説明します。

まず、総合テレビです。後半期については、夜間帯の番組の編成を見直します。木曜日の午後10時は、「LIFE～人生に捧げるコント～」の後続として「地球イチバン」を、金曜日の午後10時は、「総合診療医 ドクターG」の後続として「ファミリーヒストリー」を放送します。いずれも昨年度放送し視聴者から評価の高かった番組です。土曜日の午後11時30分は、昨年度も後半期に放送した「妄想ニホン料理」を、「タイムスクープハンター」の後続として放送します。

ドラマについてです。9月29日から始まる91作目の「連続テレビ小説」は、大阪放送局制作の「マッサン」です。“夢に生きる不器用な日本男児”マッサンと、“大阪弁を話す気品あふれるスコットランド人の妻”エリーの、デコボコ夫婦が織りなす、夫婦の人情喜劇です。

54作目となる「大河ドラマ」は、27年1月から「花燃ゆ」を放送します。明治維新で活躍する志士を育てた、吉田松陰の妹・文（ふみ）が主人公です。松陰の志を継いで時代を切り開いていった“若者たちの青春群像”をダイナミックなスケールで描くもので、主演は井上真央さんです。大河ドラマの各回のストーリーを5分にまとめた「5分でわかる『花燃ゆ』」も放送します。水曜日の午後10時台、「歴史秘話ヒストリア」の直後などに編成し、「大河ドラマ」の視聴につなげていきます。

日曜日午後11時の「海外連続ドラマ」は、新シリーズとして、11月30日から「ダウントン・アビー ～華麗なる英国貴族の館～」を放送します。20世紀初頭のイギリスを舞台にした人気シリーズで、第2・第3シリーズの全20回を放送します。

次に、Eテレです。水曜日午後7時台に放送の「海外ドラマ」は、新シリーズの「超能力ファミリー サンダーマン」を、全20回シリーズで放送します。また、金曜日午後6時55分に、「Eダンスアカデミー」の後続として「スクールライブショー」を放送します。

学校放送番組の新シリーズとして、水曜日午前9時10分に「はりきり体育ノ介」を放送します。タブレットなどIT活用授業に対応した、小学生向けの体育授業番組です。また、音楽教養番組の新シリーズとして、木曜日午後11時に、「ミュージック・ポートレート」の後続として「亀田音楽専門学校」を放送します。

週末のアニメ番組では、土曜日午後5時30分に、新シリーズ「アニメ ログ・ホライズン2」を放送します。日曜日午後5時30分には、

人形劇「シャーロック ホームズ」を放送します。三谷幸喜さんの脚本で、総合テレビでも特集として放送してきましたが、10月5日からはEテレで定時番組として放送していきます。

語学番組の新シリーズは、月曜日から木曜日の午後10時50分に、社会人がビジネスで使える英語表現を学ぶ「しごとの基礎英語」を放送します。

BS1では、金曜日午後11時台に、プロ野球関連のスポーツ特集番組を放送します。プロ野球がオフシーズンになる後半期も、プロ野球ファンの期待に応えていきます。

午後11時台の「ワールドスポーツMLB」については、MLB（アメリカ大リーグ）のシーズン終了に伴い、水曜日と木曜日は20分に短縮し、金曜日は前出のプロ野球関連の特集番組を放送します。MLBの関連情報や欧州サッカーを中心に、ウインタースポーツ、NFL（アメリカプロフットボールリーグ）、NBA（アメリカプロバスケットボールリーグ）などの最新情報を伝えていきます。

また、欧米の夏時間の終了にともない、日曜日午前の編成を一部変更します。午前7時台に放送している「ワールドニュース」を午前8時台の放送とし、「PGAゴルフ」は、午前6・7時台での放送とします。午前5時台には「ラン×スマ」を再放送します。

BSプレミアムは、水曜日午後9時に、昨年度後半期に好評を得た「ザ・プロファイラー ～夢と野望の人生～」を放送します。司会は、「軍師官兵衛」の主演・岡田准一さんです。水曜日午後11時15分には、「世界入りにくい居酒屋」を放送します。観光客には入りにくい、地元の人しか知らない世界各地の名店を紹介し、その土地独自の文化や人情に触れる番組です。木曜日午後11時15分の海外連続ドラマでは、おとぎ話をモチーフにした大人のためのファンタジードラマ、「ワンス・アポン・ア・タイム2」を放送します。また、土曜日の午後7時は、宮崎吾朗監督が初のテレビアニメシリーズを手がけた「山賊の娘ローニャ」を放送します。

ラジオ第1は、プロ野球のシーズンオフにともなう改定として、木・金曜日の午後6・7時台でも「私も一言！夕方ニュース」、「列島リレーニュース」などを放送します。また、木曜日午後8時5分は「かれんスタイル」を、金曜日午後8時5分は「ぼくらの青春 J-POP 平

成ミュージック・グラフィティ」を放送します。

ラジオ第2は、語学講座として、土曜日午後6時30分に「ポルトガル語ステップアップ」を放送します。昨年度放送したものの再放送で、24回にわたって放送します。

FM放送は、毎月最終月曜日の午後11時に、「健太×近田のロック巖流島」を放送します。音楽評論家の萩原健太さんと近田春夫さんの司会で、ロックンロールと現代ミュージックの歩みを真正面からひもといていきます。

ワンセグ独自放送については、変更はありません。

補完放送等は、データ放送については、各波の新番組で、大河ドラマ、連続テレビ小説のほか、教育テレビの「アニメ ログ・ホライズン2」などで実施します。ハイブリッドキャストについては、総合テレビに加え、後半期からはEテレの「しごとの基礎英語」のほか、BS1、BSプレミアムの各波でも実施します。

以上の報告内容が決定されれば、9月9日開催の第1220回経営委員会に報告します。

(会 長) 原案どおり決定します。

(3) 平成26年度後半期の国際放送番組の編成について

(国際放送局)

平成26年度後半期の国際放送番組の編成について、審議をお願いします。

外国人向けテレビ国際放送（NHKワールドTV）については、来年度の改定につながるような3点の変更を行います。

第1に、これまでにない番組ジャンルや新しい演出手法にチャレンジする開発番組を編成する枠「NHK WORLD SHOWCASE」を設けます。エンターテインメントや討論番組、外国人の視点で制作したドキュメンタリーなどを試作し、来年度改定につなげます。

第2に、国内番組との連携を強化します。アニメを使った演出手法で好評を得たBS1の経済ドキュメンタリー「島耕作のアジア立志伝」を英語化します。

第3に、来年度の改定に向けて既存の番組の放送時間を一部移設し、

世界の地域別の視聴傾向に合わせた「ゾーン編成」を試行的に開始します。北米のオピニオンリーダーやビジネス層を意識し、アメリカ東部標準時の午後8時台（日本時間午前10時台）に「ドキュメンタリー」ゾーンを設けるほか、アジア、欧州、北米の各地域の好適視聴時間帯（初回放送は日本時間午後1時台）に、「ライフスタイル&トラベル」ゾーンを配置します。

ラジオ国際放送（ラジオ日本）の邦人向け日本語放送については、プロ野球ナイトゲームの終了に伴い、編成を変更します。

以上の報告内容が決定されれば、9月9日開催の第1220回経営委員会に報告します。

（会 長） 原案どおり決定します。

（4）次期経営計画について

（経営企画局）

平成27～29年度のNHK経営計画の策定について、「NHK3か
年計画（2015－2017年度）基本的な考え方と重点事項」等をと
りまとめましたので、審議をお願いします。

本件が了承されれば、本日開催の第1219回経営委員会に審議事項
として提出します。

（会 長） 原案どおり了承し、本日の経営委員会に諮ります。

2 報告事項

（1）予算の執行状況（平成26年7月末）

（経理局）

平成26年7月末の予算の執行状況について報告します。

最初に、一般勘定の事業収支の全体概況を説明します。7月末の標準進捗率は33.3%（4か月／12か月）です。事業収入は2,238億円、進捗率が33.7%で、受信料が標準進捗率を上回るなど、全体として堅調な状況となっています。事業支出は2,102億円、進捗率が32.1%で、全体として標準進捗率を下回る支出状況となっています。この結果、事業収支差金は135億円の黒字となっています。

一般勘定の事業収支を前年同月と比較すると、事業収入は受信料の増収等により、36億円増の2,238億円となりました。事業支出は、受信対策費や給与等が減となった一方で、国内放送費や国際放送費等の増により、前年同月と比べ10億円増の2,102億円となりました。事業収支差金は、26億円増の135億円となり堅調な状況ですが、スポーツ放送権料の増や災害報道への対応等を踏まえ、今後の支出状況を注視していきます。

受信料の状況については、受信契約件数の増加により、前年同月に比べ57億円増加しました。受信契約件数については、営業改革の推進により、契約総数・衛星契約数ともに、年間増加目標に対し堅調に増加しています。

最後に、番組アーカイブ業務勘定の状況です。事業収入は、前年同月比0.8億円増の6.2億円となりましたが、単月の視聴料収入は伸び悩んでおり、今後の進捗を注視していきます。事業支出は、権利処理に係る経費の削減など効率的な業務運営により5.3億円に抑制しました。この結果、事業収支差金は前年同月と比べ1.9億円改善し、0.9億円の黒字となっています。

本件は、本日開催の第1219回経営委員会に報告します。

(2) 契約・収納活動の状況（平成26年7月末）

(営業局)

平成26年7月末の契約・収納活動の状況について報告します。

まず、第2期（6月・7月）の当年度分受信料収納額は1,061.9億円で、前年同時期を23.4億円上回りました。年間累計は2,087.8億円となり、前年同時期より43.9億円の増収となっています。

前年度分回収額は10.1億円で、前年同時期を0.5億円上回り、年間累計も39.3億円と、前年同時期を0.3億円上回っています。前々年度以前分回収額は、6.3億円と前年同時期を0.7億円下回り、年間累計も12.3億円と、前年同時期を1.8億円下回りました。

次に、第2期の受信契約総数の増加状況は、取次数が前年同時期と同じ47.2万件でしたが、減少数が1.4万件上回ったため、増加数は前年同時期を1.4万件下回る5.9万件となりました。年間累計増加数は21.4万件と、前年同時期を0.3万件下回っています。

衛星契約数の増加状況は、取次数が32.4万件と前年同時期を3.8万件上回りましたが、減少数も1.8万件上回ったため、増加数は前年同時期を2.0万件上回る15.4万件となりました。年間累計増加数は33.7万件となり、前年同時期を1.4万件上回っています。

また、第2期の未収削減については、前年同時期を0.2万件下回る3.5万円の削減、年間累計では0.6万件下回る6.2万円の削減となりました。その結果、第2期末の未収現在数は、131.9万件となっています。

最後に、第2期の口座・クレジットカード支払い等の増加数は12.1万件で、前年同時期を0.8万件下回りました。年間累計増加数は31.3万件と、前年同時期を0.6万件下回っています。

以上の内容は、本日開催の第1219回経営委員会に報告します。

(3) 地方放送番組審議会委員の委嘱について

(木田理事)

地方放送番組審議会委員の委嘱について、報告します。

近畿地方で原さだ氏（財団法人龍神村開発公社 専務理事）に、中部地方で中村智景氏（株式会社四季料亭「助六」 女将）、加藤勇二氏（愛知県農業協同組合中央会 常務理事）、および大島宇一郎氏（中日新聞社 取締役管理局長）に、九州沖縄地方で友安潔氏（西日本新聞社 編集局報道センター長）に、北海道地方で小林米三郎氏（株式会社小林本店 代表取締役社長、小林酒造株式会社 代表取締役社長）に、平成26年9月1日付で新規委嘱します。

また、中部地方で森棟公夫氏（学校法人椋山女学園 理事長、椋山女学園大学 学長）に、東北地方で向田吉広氏（東北電力株式会社 常務取締役）に、同日付けで再委嘱します。

なお、近畿地方の坂田順子氏（和歌山県指導農業士 どの坂果樹園）、中部地方の秋元祥治氏（NPO法人G-net 代表理事）、井上庄吾氏（愛知県農業協同組合中央会 専務理事）、および金森昭夫氏（中日新聞社 取締役総務担当）、北海道地方の笹原晶博氏（北海道銀行 代表取締役副頭取）は、任期満了により平成26年8月31日付で退任されます。

本件は、本日開催の第1219回経営委員会に報告します。

(4) 放送技術審議会委員の委嘱と任期途中の退任について

(技術局)

放送技術審議会委員の委嘱と任期途中の退任について報告します。

長尾尚人氏(一般社団法人電子情報技術産業協会 代表理事、専務理事)に、平成26年9月1日付で新規委嘱しました。

また、半田力氏(前 一般社団法人電子情報技術産業協会 専務理事)は、本人の申し出により、任期途中の平成26年7月31日付で退任されました。

以上で付議事項を終了した。

上記のとおり確認した。

平成26年 9月 9日

会 長 靱 井 勝 人